

117 良きサマリア人

ルカによる福音書 10 : 25~37

前回 No.116 の聖書箇所（ルカによる福音書 10 : 23~24）

それから、イエスは弟子たちの方を振り向いて、彼らだけに言われた。

「**あなたがたの**見ているものを見る目は幸いだ。言うておくが、多くの預言者や王たちは、あなたがたが見ているものを見たかったが、見ることができず、あなたがたが聞いているものを聞きたかったが、聞けなかったのである。」

25 すると、ある（モーセの）律法の専門家（→ノミコス：律法学者）が立ち上がり、イエスを試そう（→ギリシア語では、「行き過ぎるまで試す」「徹底的に試す」という意味である）として言った。

「先生、何をしたら、永遠の命を受け継ぐことができるでしょうか。」

【参考】永遠の命（聖句一部抜粋）

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数 : 6 / 聖句等の総数 33250 <永遠の命>6個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙 : 永遠の命]
S ヨハネによる福音書	3:16 神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。	
S ヨハネによる福音書	5:24 はっきり言うておく。わたしの言葉を聞いて、わたしをお遣わしになった方を信じる者は、永遠の命を得、また、裁かれることなく、死から命へと移っている。	
S ヨハネによる福音書	6:47 はっきり言うておく。信じる者は永遠の命を得ている。	
S ヨハネによる福音書	17:3 永遠の命とは、唯一のまことの神であられるあなたと、あなたのお遣わしになったイエス・キリストを知ることです。	
S ローマの信徒への手紙	6:23 罪が支払う報酬は死です。しかし、神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスによる永遠の命なのです。	
S テトスへの手紙	3:7 こうしてわたしたちは、キリストの恵みによって義とされ、希望どおり永遠の命を受け継ぐ者とされたのです。	

26 イエスが、「**律法**（→旧約聖書＝ユダヤ教聖書の最初のモーセ五書：創世記、出エジプト記、レビ記、民数記、申命記）**には何と書いてあるか。あなたはそれをどう読んでいるか**」（→質問に対して質問で答える、典型的なラビ的教授法）と言われると、

27 彼（→ある律法の専門家）は答えた。

『**心を尽くし、精神**（→魂 soul）**を尽くし、力を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい、また、隣人を自分のように愛しなさい**』とあります。』

→レビ記 19 : 18 復讐してはならない。民の人々に恨みを抱いてはならない。自分自身を愛するように隣人を愛しなさい。わたしは主である。

→申命記 06 : 05 あなたは心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。

→律法を正しく守るとは、①神を愛し、②隣人を愛することである。

28 イエスは言われた。

「**正しい答えだ。それを**（継続して）**実行しなさい。そうすれば命が得られる**。（でも、これはなかなか実際にはできないだろう。）」

→一見すると、「業による救い」が可能に見えるが、これは仮定の回答である。

29 しかし、(プライドが高い) 彼は自分を正当化しようとして、「では、わたしの隣人とはだれですか」と言った。

30 イエスはお答えになった。

「ある(ユダヤ)人がエルサレムからエリコ(→海拔マイナス244mにあるエリコは、海拔762mにあるエルサレムの北東約26kmにある)へ下って行く途中、追いはぎに襲われた。追いはぎはその人の服をはぎ取り、殴りつけ、半殺しにしたまま立ち去った。

31 ある祭司がたまたまその道を下って来たが、その人を見ると、(面倒に巻き込まれたくなかったので)道の向こう側を通って行った。

32 同じように、(神殿に奉仕し、祭司を補助する)レビ人もその場所にやって来たが、その人を(横目でちらりと)見ると、道の向こう側を通って行った。



→当時、祭司は律法により、死体やけが人の血に触れることを恐れていた。汚れば、再び神殿での務めに戻るためには清めの儀式をしなければならなかった。また、レビ人も祭司を補佐していたが、同じように汚れることを恐れた。

33 ところが、(常日頃ユダヤ人に軽蔑されている)旅をしていたあるサマリア人は、そばに来ると、その人を見て憐れ(→自分の臓器が痛むくらい、断腸)に思い、34 近寄って傷に(オリーブ)油とぶどう酒を注ぎ、包帯をして、自分のろばに乗せ、宿屋に連れて行って(一晩中)介抱した。

35 そして、翌日になると、デナリオン銀貨(→ローマの銀貨、1デナリオン=1ドラクメ、1日の農夫の日当に相当する)二枚を取り出し、宿屋の主人に渡して言った。『この人を介抱してください。費用がもっとかかったら、帰りがけに払います。』

36 さて、あなたはこの三人の中で、だれが追いはぎに襲われた人の隣人になったと思うか。」

37 律法の専門家は言った。

「その人を助けた人です。」→律法学者は口が裂けてもサマリア人とは言っていない。

そこで、イエスは言われた。「行って、あなたも同じようにしなさい。」

→「行って、あなたも同じようにしなさい。」(聖書協会共同訳)

→“Go and do likewise.” (NEW INTERNATIONAL VERSION)

→「そのとおりです。あなたも同じようにしなさい。」(リビング・バイブル)

[注意] ファイル No.120を開くには、次のパスワード(4桁半角数字)が必要になります。→【4781】

【参考】ユダヤ人とサマリア人との間にある教理や礼拝を巡る対立

1. かつてサマリア人は、エルサレムに神殿を再建することに参加したい（エズラ記 4：1）と望み、願っていたが、周辺異教文化の人々との結婚やユダヤ人にとって正当的でない見解の故に、その機会を与えられなかった（結果として、サマリア人は自分たちの神殿をゲリジム山に建てた）。そして、ネヘミヤがエルサレムの城壁を建ててのことに専念していた時、サマリア人は、それを阻止しようと激しく邪魔をした（ネヘミヤ 6：1～14）。

2. サマリア人は自分たちの神殿をゲリジム山に建て、モーセが特別に国として礼拝する場所として示したのはそこだと主張し、サマリア人の偶像礼拝の宗教はこうして永続された。

3. サマリア人はモーセの五書だけを受け入れ、他の預言者の書、ユダヤ人の伝統を拒絶した。

以上の理由から、彼らの間には全く和解できない違いが起こり、ユダヤ人はサマリア人を人類の中で最悪の人種だとみなし（ヨハネによる福音書 8：48）、彼らとは全く付き合いをしなかった（ヨハネによる福音書 4：9）。

ユダヤ人とサマリア人との間の憎しみにもかかわらず、サマリア人に平和の福音を宣べ伝えて（ヨハネ 4：6～26）、イエスはその間の壁を壊されました。そして、イエスの後に来る使徒たちもイエスの模範に従いました（使徒言行録 8：25）。

【一口メモ】傷口の正しい処置の方法

これまでの医学知識として、傷口は、①消毒する、②乾かして治す、③ガーゼを当てて保護する、が常識でした。しかし今は、次のように言われています。

①消毒はするな！

傷口は【水で洗浄する】だけで十分で、消毒をすると、皮膚の表面にいる悪い菌から守ってくれる良性の常在菌まで殺す事になり、かえって悪い菌が体内に入りやすくなり、細菌に感染する危険性が高まる。

②傷を乾かすな！

傷は、濡れていないと治らない。傷が乾燥すると、皮膚の再生をストップさせてしまうからです。傷がジュクジュクしているのは、その部分を治そうとしているからで、化膿しているのではない。傷に、【ワセリンを塗る】ことで乾燥を防止できます。

③ガーゼは使うな！

ガーゼは傷を乾燥させ、剥がす際も、傷と固着し、痛みと出血を伴うので逆効果。

傷口にワセリンを塗った後、【ラップや油紙などで傷を覆う】（乾燥を防ぎ、滲出液がこぼれ落ちるのを防げるものであれば、身近にあるもので十分）。

モイストヒーリング(湿潤療法) ⇔ ドライヒーリング (治りが遅くキズあとが残りやすい)

キズをしっかりと覆い、潤い(体液)を保ってきれいに治すキズケアで、これは「キズ口を清潔にし、そこから出る体液(滲出液)を保つことで痛みが少なく、キズは早くきれいに治る」という考え方です。

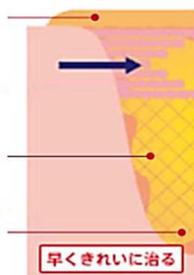
体液(滲出液)にはキズを早くきれいに治す力が秘められています。



キズ口をピッタリ覆って密閉することで、傷口が空気に触れず、受ける刺激が少なくなり、痛みが和らぐ。

体液(滲出液)の中を細胞が動き回るため、なめらかな表皮をスムーズに再生でき、きれいに治る。

体液(滲出液)のはたらきを最大限に活用できるため、キズの修復が早く進む。



【参考】精神

精神は、知性的存在者の認識能力、意志能力、判断能力の総称である（＝心、意識、気力、理念、理性、悟性、知性など）。

一般には、魂は感情、知覚、受動性にかかわる能力とされるのに対して、精神は能動的で知知的な働きとされる。（ウィキペディア）

タイトル(書名)	章:節 聖句 【検索対象総数：8 / 聖句等の総数 33250 (精神)8個】 ※新共同訳聖書では、「精神」は8回登場します。ところが・・・。	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙：精神]
K 申命記	28:28 主はまた、あなたを打って、気を狂わせ、盲目にし、精神を錯乱させられる。 The Lord will afflict you with madness, blindness and confusion of mind .	★ mind ①知力、知性、思考力、頭脳 ②心、精神、③ものの考え方、気質 ④意見、意向、本心、願望、好み ⑤注意、関心、⑥知的な人、⑦記憶、回想、 ⑧正気、平静、理性
K 箴言	個人的には「魂」より「動機」「目的」の方が適訳と思う→ 精神 → 魂 (聖書協会共同訳) 16:2 人間の道は自分の目に清く見えるが、主はその精神を調べられる。 All a person's ways seem pure to them, but motives are weighed by the Lord.	★ motive ①動機、目的、意志、意欲
S マタイによる福音書	(聖書協会共同訳)『心を尽くし、魂を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』 22:37 イエスは言われた。『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』 Love the Lord your God with all your heart and with all your soul and with all your mind .	
S マルコによる福音書	(聖書協会共同訳)『心を尽くし、魂を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』 12:30 心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』 Love the Lord your God with all your heart and with all your soul and with all your mind and with all your strength.	
S ルカによる福音書	(聖書協会共同訳)『心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』 10:27 彼は答えた。『心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい、また、隣人を自分のように愛しなさい』とあります。』 Love the Lord your God with all your heart and with all your soul and with all your strength and with all your mind	★ soul ①魂、靈魂、靈、②精神、③熱情、生氣、氣迫、④本質的部分、生命、信條 等
S テモテへの手紙Ⅰ	6:5 絶え間ない言い争いが生じるのです。これらは、精神が腐り、真理に背を向け、信心を利得の道と考える者の間で起こるものです。 and constant friction between people of corrupt mind , who have been robbed of the truth and who think that godliness is a means to financial gain.	
S テモテへの手紙Ⅱ	3:8 ヤンネとヤンブレがモーセに逆らったように、彼らも真理に逆らっています。彼らは精神の腐った人間で、信仰の失格者です。 Just as Jannes and Jambres opposed Moses, so also these teachers oppose the truth. They are men of depraved minds , who, as far as the faith is concerned, are rejected.	精神→ 知性 (聖書協会共同訳)
S ヘブライ人への手紙	4:12 というのは、神の言葉は生きており、力を発揮し、どんな両刃の剣よりも鋭く、精神と霊、関節と骨髄とを切り離すほどに刺し通して、心の思いや考えを見分けることができます。 For the word of God is alive and active. Sharper than any double-edged sword, it penetrates even to dividing soul and spirit , joints and marrow; it judges the thoughts and attitudes of the heart.	精神→ 知性 (聖書協会共同訳) 精神→ 魂 (聖書協会共同訳)

⑧「聖書協会共同訳」では、「新共同訳」で誤訳(?)と思われる箇所が訂正されている(英文聖句は NEW INTERNATIONAL VERSION を用いています)。

▶精神 (広辞苑)

- ① (物質・肉体に対して) 心。意識。たましい。
- ② 知知的・理性的な、能動的・目的意識的な心の働き。根気。気力。→「向学の精神」
- ③ 物事の根本的な意義。理念。→「建学の精神」
- ④ 個人を超えた集団的な一般的傾向。時代精神・民族精神など。
- ⑤ 多くの観念論的形而上学では、世界の根本原理とされているもの。例えば、ヘーゲルの絶対精神の類。

▶精神 (明鏡国語辞典)

- ① 思考や感情の働きをつかさどる心。→「健全なる精神」
- ② 物事を成し遂げようとする気力。→「不撓不屈の精神」
- ③ 物事を支える根本となるもの。理念。→「民主主義の精神」

▶精神 (ブリタニカ国際大百科事典)

非物質的現象またはその基本とされる実体をさす概念。

その直接的認識は不可能なので精密な概念規定はなく、各思潮、各学派などで異なる。

原語は風、息吹きを意味し、人間に宿るきわめて軽妙なものと考えられ、生命の原理とされる。ここから神、天使なども精神とされ、特に神から離反する肉に対し神に従う霊と同義に用いられた。

一般には思考全般をさし、対象に対する主体が精神とされ、また物質、生み出されたものとしての自然、本能としての肉などに対立する知性をさし、転じては学説や制度などの中核的理念をも意味する。

▶精神 (新漢語林)

- ① ところ。たましい。⇔肉体。② 気力。元気。③ 生氣のあふれていること。生氣・光彩があつて美しいこと。④ 意義、理念。

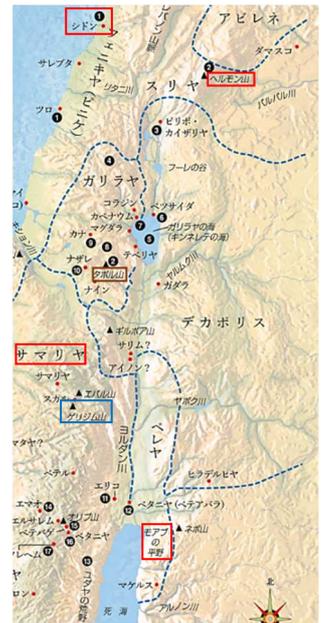
【参考】 サマリア人 Samaritan

▶サマリア (Samaria) は、パレスチナ中央部の地域名で、北にガリラヤ、南にユダヤが接する。「列王記」によると、サマリアという名前は昔この辺の土地を持っていた地主「シェメル/セメル Shemer」の名前が起源とされる。

→列王記上 16 : 23~24 ユダ (南王国) の王アサの治世 (BC911~870/913~873) 第三十一年に、オムリが (北) イスラエルの王 (BC885~874/876~869) となり、十二年間王位にあった。彼は六年間ティルツァで国を治めた後、シェメルからサマリアの山を銀二キカル (約 34 kg/キカル×2=約 68 kg、Ag80 円/g×68 kg≒544 万円) で買い取り、その山に町を築いた。彼はその築いた町の名を、山の所有者であったシェメルの名にちなんでサマリアと名付けた。

→オムリ : 列王記に記されている以上に実際には王として成功を収めた (列王記 16 : 21~27)。**【モアブ】**を支配し、息子の婚姻を通して**【シドン】**と同名を結び (16 : 31)、サマリアを築いて首都とした。しかし、この卓越した政治力も信仰の面では発揮されなかった (16 : 25~26、ミカ書 6 : 16)。

その後この辺り周辺が北イスラエル王国の首都となったため、都市に限らずにこのあたりの地域やもっと広く北イスラエル王国そのものを指すようになった。



▶BC722 年、北イスラエル王国は、アッシリアに滅ぼされ属領 (住民を奴隷として連れ去りーアッシリア捕囚、代りにメソポタミア北部ーチグリス川とユーフラテス川の上流域ーのアッシリア人、アラム人を移住させた) となる。この移住してきた異民族と混血したのがサマリア人で、以後長く異教徒としてユダヤ人に排斥された。

サマリア人は**【ゲリジム山】** (モーセによって祝福の象徴とされ、サマリア人の聖地、申命記 11 : 29、27 : 12、ヨシュア記 8 : 33、士師記 9 : 7) に神殿を持っていて (聖書に記述はない)、祭司もおり、また、独自の解釈をしていたので、ユダヤ人はサマリア人をイスラエルの神に忠実でないと考えていた。

①サマリア人はユダヤ教と偶像礼拝が混合した宗教を受け入れた。

→列王記下 17 : 26~28

彼らはアッシリアの王にこう告げた。「あなたがサマリアの町々に移り住ませた諸国の民は、この地の神の掟を知りません。彼らがこの地の神の掟を知らないので、神は彼らの中に獅子を送り込み、獅子は彼らを殺しています。」アッシリアの王は命じた。「お前たちが連れ去った祭司の一人をそこに行かせよ。その祭司がそこに行って住み、その地の神の掟を教えさせよ。」こうして、サマリアから連れ去られた祭司が一人戻って来てベテルに住み、どのように主を畏れ敬わなければならないかを教えた。

②サマリア人の信仰は、①神が唯一の神である、②モーセが唯一の預言者である、③モーセ五書だけが唯一不変の啓示である、④ゲリジム山が唯一の聖所である、⑤ 天地創造から 6000 年後、ゲリジム山の神殿とサマリア人の繁栄を回復するタへ (回復者) が現れて新しい統治を始める、に要約される。

▶ユダヤ人とサマリア人との間にある教理や礼拝を巡る対立

①かつてサマリア人は、エルサレムに神殿を再建することに参加したい (エズラ記 4 : 1) と望み、願い出たが、周辺異教文化の人々との結婚やユダヤ人にとって正当的でない見解の故に、その機会を与えられなかった (結果として、サマリア人は自分たちの神殿をゲリジム山に建てた)。そして、ネヘミヤがエルサレムの城壁を建てるのに専念していた時、サマリア人は、それを阻止しようと激しく邪魔をした (ネヘミヤ 6 : 1~14)。

②サマリア人は自分たちの神殿をゲリジム山に建て、モーセが特別に国として礼拝する場所として示したのはそこだと主張し、サマリア人の偶像礼拝の宗教はこうして永続された。

③サマリア人はモーセの五書だけを受け入れ、他の預言者の書、ユダヤ人の伝統を拒絶した。

以上の理由から、彼らの間には全く和解できない違いが起こり、ユダヤ人はサマリア人を人類の中で最悪の人種だとみなし（ヨハネによる福音書 8：48）、彼らとは全く付き合いをしなかった（ヨハネによる福音書 4：9）。

ユダヤ人とサマリア人との憎しみにもかかわらず、サマリア人に平和の福音を宣べ伝えて（ヨハネ 4：6～26）、イエスはその間の壁を壊されました。そして、イエスの後に来る使徒たちもイエスの模範に従いました（使徒言行録 8：25）。

▶ 聖霊によって私たちの目に天来の油が塗られるとき、

① 他の人には困難しか見えない場所に可能性が見え、

② 他の人には不毛な畑にしか見えない場所に、私たちは神の国のための豊かな魂の収穫を見るのである。→ 福音を受け入れようとする心に私たちが種を蒔くなら、それはいつの日か、神の栄光のために実を結ぶことになる。

【参考】 新約聖書にある「サマリア人」(旧約聖書では、列王記下 17:29 のみにサマリア人が登場する)

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数: 8 / 聖句等の総数 33250 (サマリア人)8個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙: サマリア人]
S マタイによる福音書	10:5 イエスはこの十二人を派遣するにあたり、次のように命じられた。「異邦人の道に行ってはならない。また、サマリア人の町に入ってはならない。→イエスの時代、ユダヤ人の中には、決して異邦人と付き合うべきではないと信じている者やサマリア人を嫌悪する者もいた。	
S ルカによる福音書	9:52 そして、先に使いの者を出された。彼らは行って、イエスのために準備しようと、サマリア人の村に入った。	
S ルカによる福音書	10:33 ところが、旅をしていたあるサマリア人は、そばに来ると、その人を見て憐れに思い、	
S ルカによる福音書	17:16 そして、イエスの足もとにひれ伏して感謝した。この人はサマリア人だった。	
S ヨハネによる福音書	4:9 すると、サマリアの女は、「ユダヤ人のあなたがサマリアの女のわたしに、どうして水を飲ませてほしいと頼むのですか」と言った。ユダヤ人はサマリア人とは交際しないからである。	
S ヨハネによる福音書	4:39 さて、その町の多くのサマリア人は、「この方が、わたしの行ったことをすべて言い当てました」と証言した女の言葉によって、イエスを信じた。	
S ヨハネによる福音書	4:40 そこで、このサマリア人たちはイエスのもとにやって来て、自分たちのところにとどまるようにと頼んだ。イエスは、二日間そこに滞在された。	
S ヨハネによる福音書	8:48 ユダヤ人たちが、「あなたはサマリア人で悪霊に取りつかれていると、我々が言うのも当然ではないか」と言い返すと、	

【参考】 種

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数: 3 / 聖句等の総数 33250 (種)4個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙: 種]
S マルコによる福音書	4:14 種を蒔く人は、神の言葉を蒔くのである。	
S ルカによる福音書	8:11 「このたとえの意味はこうである。種は神の言葉である。	
S ペトロの手紙 I	1:23 あなたがたは、朽ちる種からではなく、朽ちない種から、すなわち、神の変わることはない生きた言葉によって新たに生まれたのです。	